

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

台湾の底堅さが確認される(Asia Weekly (12/20~12/24))

~輸出の堅調を受けて生産の拡大が続く。物価上昇圧力に懸念が燃る~

発表日:2010年12月27日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/20 (月)	(タイ) 11月輸出 (前年比)	+28.5%	+21.0%	+15.7%
	11月輸入 (前年比)	+35.3%	+16.0%	+13.5%
	(台湾) 11月輸出受注 (前年比)	+14.34%	+13.31%	+12.26%
12/21 (火)	(香港) 11月消費者物価 (前年比)	+2.9%	+2.9%	+2.6%
12/22 (水)	(台湾) 11月失業率 (季調済)	4.79%	4.90%	4.96%
	(マレーシア) 11月消費者物価 (前年比)	+2.0%	+2.1%	+2.0%
12/23 (木)	(ニュージーランド*) 7-9月期実質GDP (前年比)	▲0.2%	+0.1%	+0.1%
	(前期比/季調済)	+1.5%	+1.8%	+1.8%
	(シンガポール) 11月消費者物価 (前年比)	+3.8%	+3.8%	+3.5%
	(台湾) 11月鉱工業生産 (前年比)	+19.37%	+12.50%	+14.46%
	11月商業販売額 (前年比)	+5.88%	+8.70%	+7.56%
12/24 (金)	(シンガポール) 11月鉱工業生産 (前年比)	+39.8%	+32.8%	+29.8%
	(前月比/季調済)	+1.1%	▲5.4%	+1.8%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾] ~輸出の堅調を受けて生産拡大、雇用改善が続く。物価上昇で消費に悪影響の兆しもみられる~

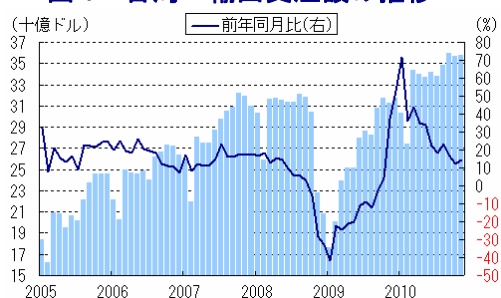
20日に発表された11月の輸出受注は、前年同月比+14.34%と前月(同+12.26%)から伸びが拡大した。前月比は+2.8%と前月(同▲0.5%)から増加に転じ、これまで頭打ちの兆しが出ていた中国本土向けは前月比+13.3%と大幅に増加した。11月の輸出額は前月比+0.5%と底堅く推移しており、輸出受注の堅調から先行きも増加が期待される。

21日に発表された11月の失業率(季調済)は、4.79%と前月(4.96%)から0.17p低下し、15ヶ月連続で改善している。雇用者数は前月比+2.3万人と前月(同+1.8万人)に続いて増加し、失業者数も前月比▲1.8万人と14ヶ月連続で減少している。先行きも輸出の底堅さにより雇用環境は改善基調が続くと予想される。

23日に発表された11月の鉱工業生産は、前年同月比+19.37%と前月(同+14.46%)から伸びが拡大。前月比も+6.6%と前月(同+4.1%)から増加が続いている。なお、足元の在庫はリーマン・ショック前の水準に達し、在庫・出荷バランスもピークアウトしていることから、在庫調整圧力が高まる懸念はあるが、中国経済の堅調を背景に生産は底堅い推移が続くであろう。

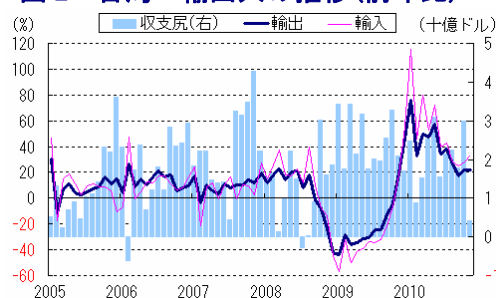
なお、23日に発表された11月の商業販売額は、前年同月比+5.88%と前月(同+7.56%)から伸びが縮小、前月比も▲1.0%と前月(同+0.9%)から減少した。卸売売上高(前月比▲1.0%)、小売売上高(同▲1.1%)ともに減少しており、特に小売部門は実質ベースで減少しており、雇用の改善にも拘らず足元の物価上昇圧力の高まりを反映して消費マインドに悪化の兆しが見られる。30日には年内最後の金融政策決定会合が予定されているが、物価抑制に向けた利上げが予想される。

図1 台湾 輸出受注額の推移



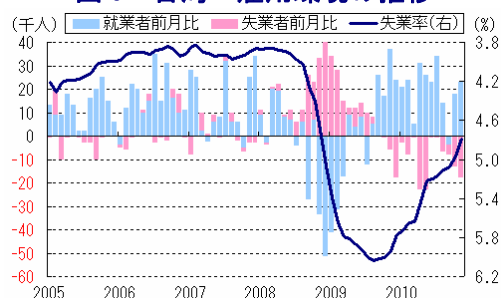
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 台湾 輸出入の推移(前年比)



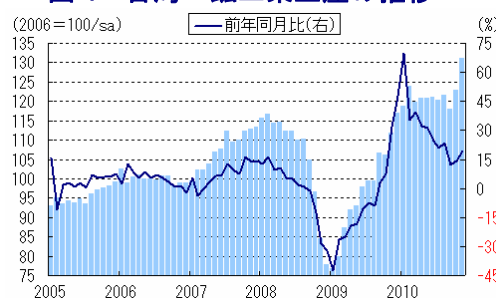
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 台湾 雇用環境の推移



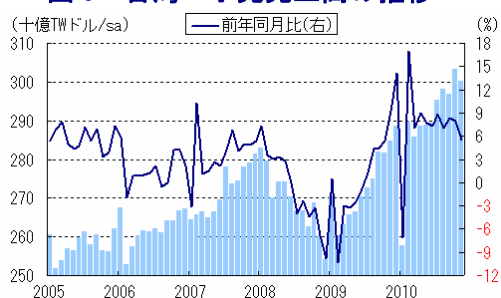
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 台湾 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 台湾 小売売上高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 台湾 消費者物価の推移(前年比)



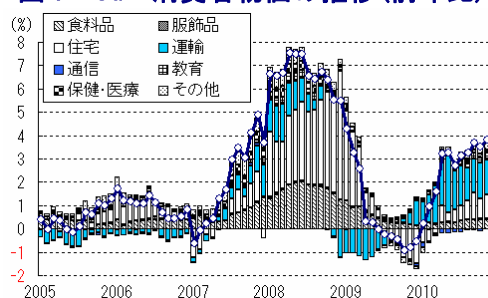
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～物価上昇圧力は徐々に高まっている。輸出の堅調で生産に底堅さも確認される～

23日に発表された11月の消費者物価は、前年同月比+3.8%と前月(同+3.5%)から加速した。前月比も+0.4%と前月(同+0.1%)から上昇し、原油価格の高騰により運輸関連で上昇したほか、不動産価格の上昇も重なり、物価上昇圧力は高まっている。金融当局は、今年4月に金融緩和の見直しに動き、10月には金融引き締め姿勢を強め、通貨SGドルの緩やかな上昇による物価抑制を図っている。しかし、世界的なカネ余りによる資金供給量の拡大で資産価格が上昇しており、物価上昇圧力は徐々に高まっている。内需の堅調からも物価の上昇基調は続くと予想される。

24日に発表された11月の鉱工業生産は、前年同月比+39.8%と前月(同+29.8%)から伸びが拡大した。前月比も+1.1%と前月(同+1.8%)から増加し、輸出の堅調を反映して拡大した。主要産業であるバイオ・医薬品関連以外の業種も底堅く、先行きの在庫調整リスクは燻るが、堅調な推移が見込まれる。

図7 SG 消費者物価の推移(前年比)



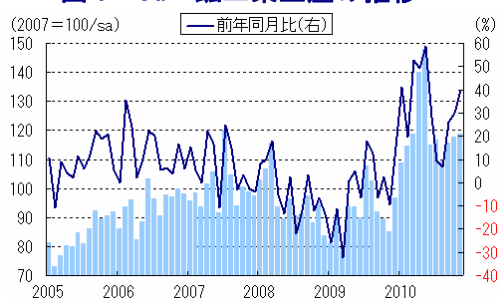
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 SG 為替相場の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 SG 鉱工業生産の推移

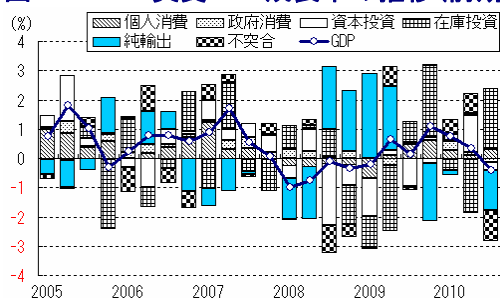


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[ニュージーランド] ～外部環境の悪化が影響して、6四半期ぶりにマイナス成長～

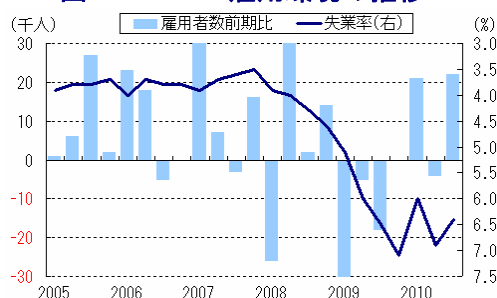
23日に発表された7-9月期の実質GDP成長率は、前年同期比+1.5%と前期(同+1.8%)から減速し、前期比も▲0.2%と6四半期ぶりのマイナス成長に転じた。個人消費は前期比+0.5%と前期(同+0.2%)から加速して底堅く推移したが、物価上昇圧力が高まる中、今年6月と7月に利上げを実施して金融引き締めには舵を切ったことや、9月4日に南部クライストチャーチ近辺で大地震が発生した影響があった。さらに、海外経済の減速により、輸出は前期比▲1.1%と減少に転じて景気の足を引っ張った。先行きの景気は復興需要などにより下支えされる可能性はあるが、しばらくは厳しい経済状況が続くと予想される。

図10 NZ 実質GDP成長率の推移(前期比)



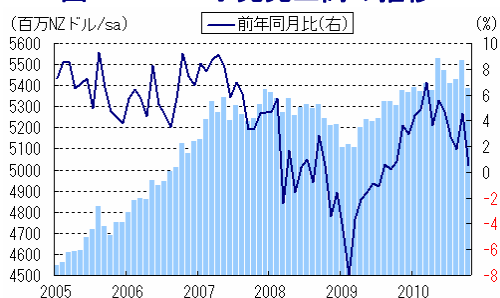
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図11 NZ 雇用環境の推移



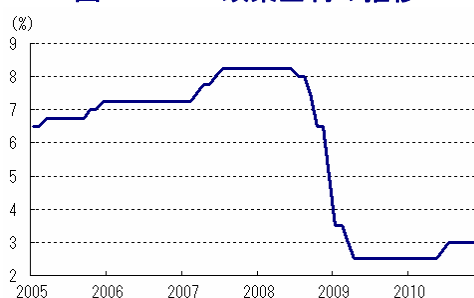
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図12 NZ 小売売上高の推移



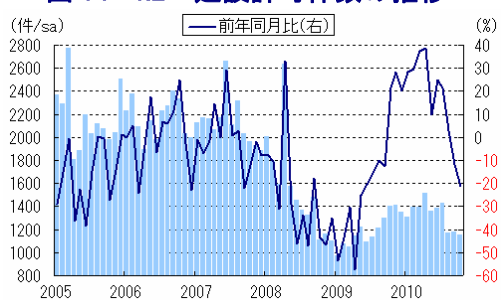
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図13 NZ 政策金利の推移



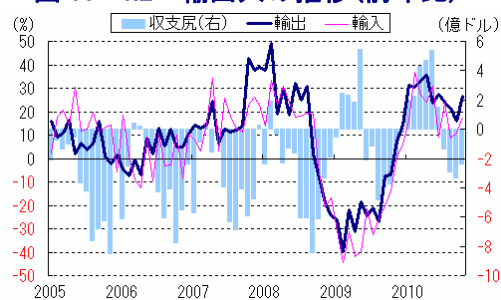
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 14 NZ 建設許可件数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 15 NZ 輸出入の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上